

## 参 考 资 料



## 1. 用語の説明

### ■「入院患者数」、「外来患者数」、「往診」、「訪問診療」

- 病院もしくは診療所の病床に入院していた患者数を「入院患者数」と表記している。なお、病院とは、患者 20 人以上の入院施設を有する医療機関を指す。また、診療所とは、19 人以下の入院施設を有する医療機関を指す。
- 病院、診療所に通院し診察等を受けた患者数を「外来患者数」と表記している。なお、「外来患者数」の合計を示している「外来（計）」には、「往診」（患者の求めに応じて必要に応じて患者の居住するところに赴いて診療すること）、「訪問診療」（患者の居住地において療養している患者であって、通院が困難な患者に対して、計画的に医師が訪問して診療を行うこと）の患者数が含まれている。

### ■二次保健医療圏（二次医療圏と表記）

- 二次保健医療圏とは、医療法第 30 条の 4 第 2 項第 12 号の規定に基づく区域で、特殊な医療を除く病院の病床の整備を図るべき地域的単位として設定するもの。医療機関相互の機能分担に基づく連携による包括的な保健医療サービスを提供していくための場であり、住民が短時間でこれらの保健医療サービスを受けることが可能となる圏域である。「千葉県保健医療計画」（平成 23 年 4 月全面改定, 平成 25 年 5 月一部改定）では、以下の通り二次保健医療圏を定めている。なお、本報告書では、二次保健医療圏を「二次医療圏」と表記している。また、二次医療圏別の集計の他に、保健所が所管している区域（保健所圏域）別の集計も掲載している。

#### 二次医療圏を構成する市町村

二次医療圏	構成市町村
千葉	千葉市
東葛南部	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市
東葛北部	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市
印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡酒々井町、栄町
香取海匝	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、香取郡神崎町、多古町、東庄町
山武長生夷隅	茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、山武郡九十九里町、芝山町、横芝光町、長生郡一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、夷隅郡大多喜町、御宿町
安房	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡鋸南町
君津	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
市原	市原市

### 保健所圏域を構成する市町村

保健所	構成市町村
習志野	習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市
市川	市川市、浦安市
松戸	松戸市、流山市、我孫子市
野田	野田市
印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町
香取	香取市、神崎町、多古町、東庄町
海匝	銚子市、旭市、匝瑳市
山武	東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町
長生	茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町
夷隅	勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町
安房	館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町
君津	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
市原	市原市
千葉市	千葉市
船橋市	船橋市
柏市	柏市

#### ■病床種別

- 医療法第30条の4では、医療計画において、入院のための病床を、療養病床、一般病床、精神病床、感染症病床および結核病床の種類別にそれぞれ基準病床数を定めることとなっている。
- 本報告書では、「第3章 「千葉県医療実態調査」集計結果」について、病床種別に結果を示している。

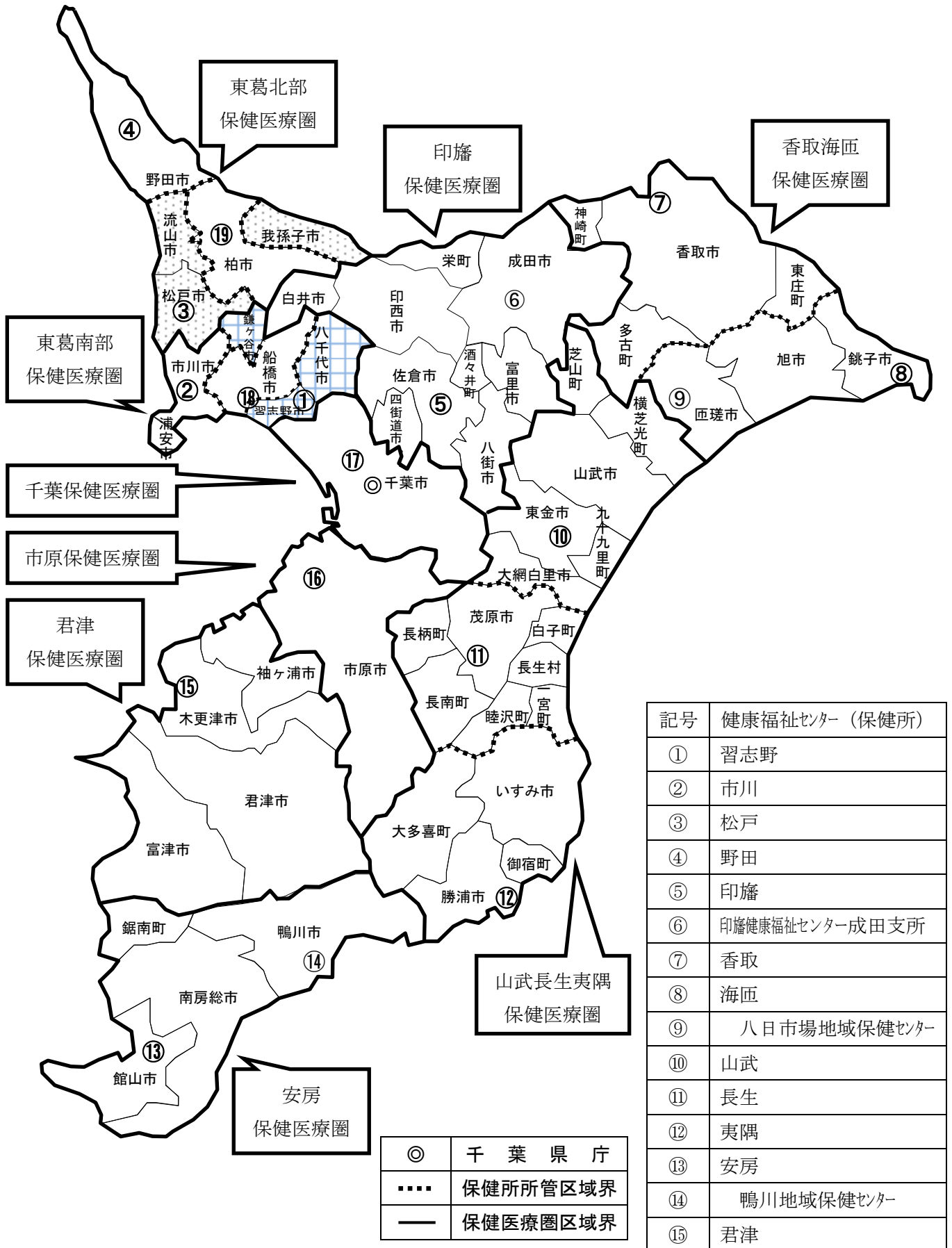
#### ■受療率

- 推計患者数を人口で除して人口10万人対で表した数。

#### ■疾患分類

- 入院患者や外来患者が治療を受けるきっかけとなる主な病名を、「国際基本分類番号（ICD-10(2003)）に沿って分類したもの。
- 本報告書では、「大分類」と、患者数が多い主な疾患（悪性新生物、糖尿病、高血圧性疾患、心疾患（高血圧性のものを除く）、虚血性心疾患、脳血管疾患）について示している。

千葉県の二次医療圏と保健所所管区域



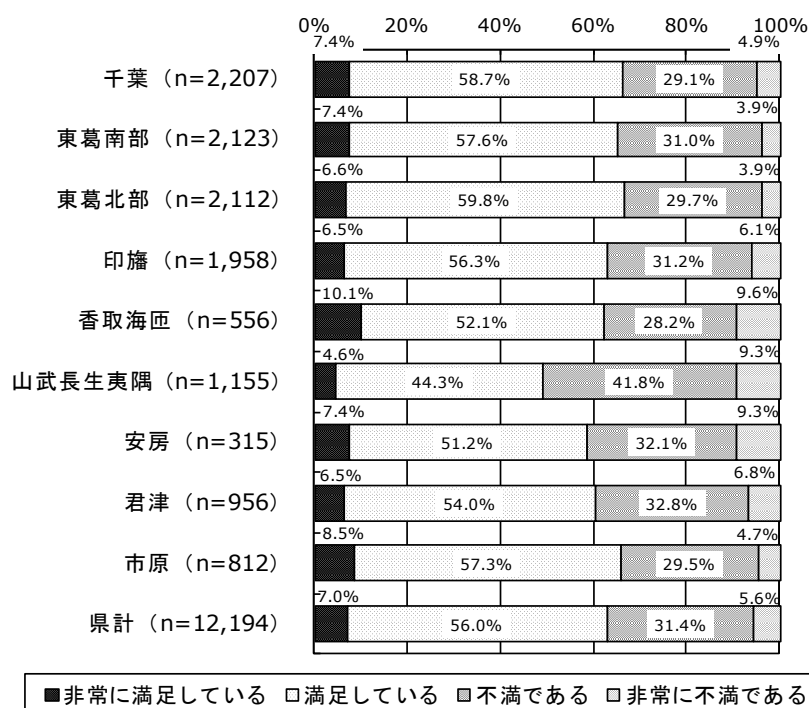
## 2. 千葉県民の医療に対する意識調査

### (1) 調査概要

- 千葉県地域医療再生計画の事業評価の基礎資料とすることを目的に、県民の医療に関する意識や満足度等に関するアンケート調査を実施した。
- 調査は、インターネット調査会社に登録しているモニターを対象に調査を配信し、回収を行った。配信にあたっては、各二次保健医療圏からほぼ同数ずつ回収する調査設計とし、二次保健医療圏ごとに人口構成（性、年齢）を反映させた人数を設定した。
- 調査は、平成26年1月から2月に実施。20才以上80歳未満の千葉県民12,194人より回答結果を回収した。

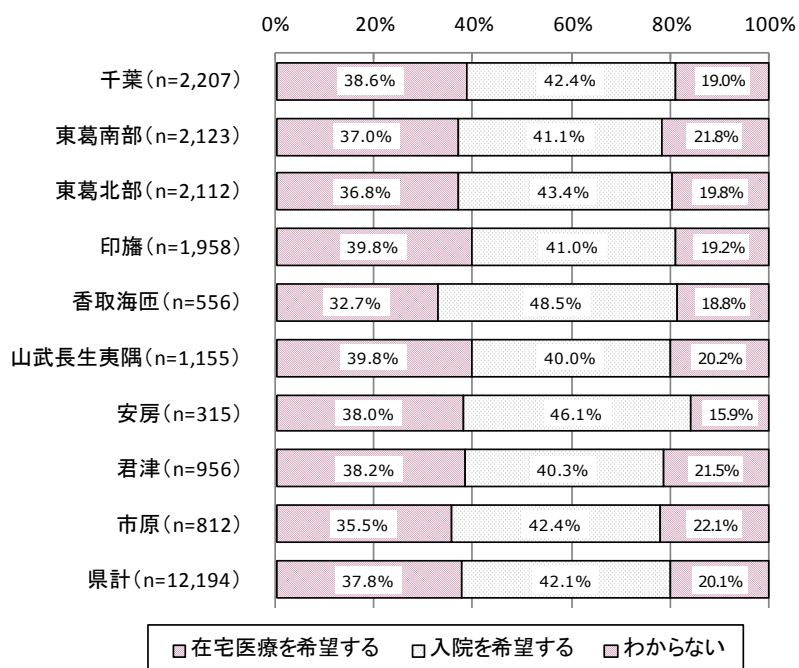
### (2) 調査結果（抜粋）

医療に関する満足度  
（よく行く医療機関までの近さ・遠さ）



注：「山武長生夷隅」二次医療圏には、平成26年4月に地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンターが開院している。

長期に渡る治療（療養）が必要になった場合に治療（療養）する場所の希望

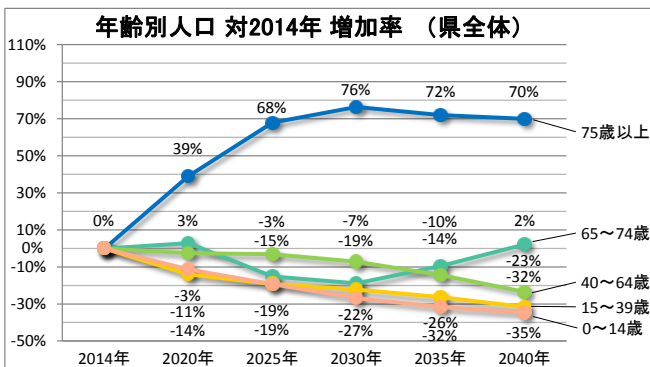
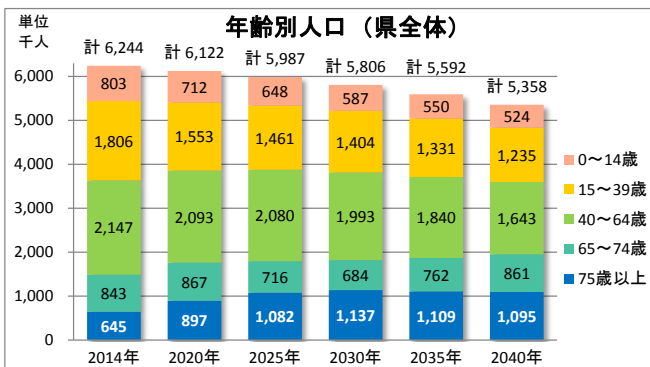


# 千葉県全体

2014年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口が減少する一方で、75歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は2035年、外来患者は2025年をピークにそれぞれ、38%増、4%増。高齢患者の増加から2035年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



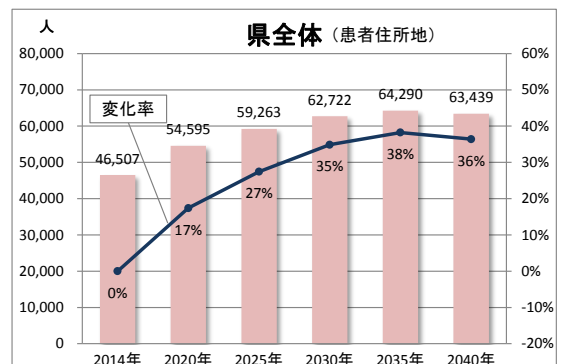
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆小児(0~14歳)は、2040年には2014年時点から35%減。
- ◆15~39歳は32%減、40~64歳は23%減。
- ◆65~74歳は、2030年の19%減から減少率は低下しはじめ、2040年時点で2%増。
- ◆75歳以上は、一貫して増加し、2040年には70%増。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして64,290人と推計。2014年の同患者数の38%増。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。





2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 合計)

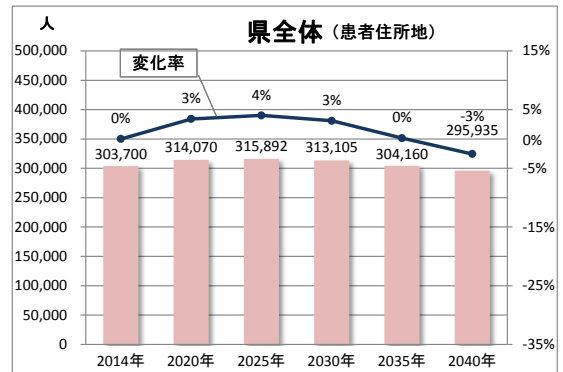
呼吸器系の疾患	86%	感染症及び寄生虫症	32%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	62%	神経系の疾患	32%
循環器系の疾患	60%	新生物	20%
内分泌、栄養及び代謝疾患	48%	眼及び付属器の疾患	20%
泌尿生殖器系の疾患	47%	耳及び乳様突起の疾患	16%
消化器系の疾患	43%	精神及び行動の障害	9%
皮膚及び皮下組織の疾患	40%	先天奇形、変形及び染色体異常	-28%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	38%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
筋骨格系及び結合組織の疾患	33%	周産期に発生した病態	-31%

千葉県内の医療機関の入院患者住所地		千葉県民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	12.4%	千葉	14.8%
東葛南部	20.2%	東葛南部	22.1%
東葛北部	17.5%	東葛北部	17.4%
印旛	10.8%	印旛	10.8%
香取海匠	5.8%	香取海匠	5.4%
山武長生夷隅	9.0%	山武長生夷隅	7.0%
安房	3.7%	安房	4.9%
君津	5.7%	君津	5.2%
市原	4.2%	市原	4.1%
県外	10.6%	県外	8.2%
合計	100.0%	合計	100.0%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 県外住民が、県内の医療機関に入院する割合は 10.6%。
- ◆ 千葉県民が県外の医療機関に入院する割合は、8.2%。その 7 割は入院時に手術を実施。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

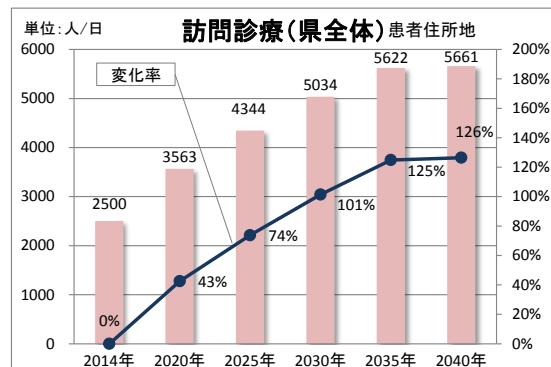
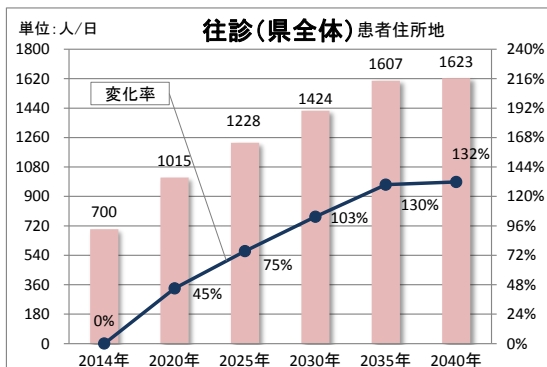
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2025年をピークとして315,892人と推計。2014年の同患者数の4%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加。



- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040年における往診、訪問診療を必要とする患者数は、対2014年比約130%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 県全体)

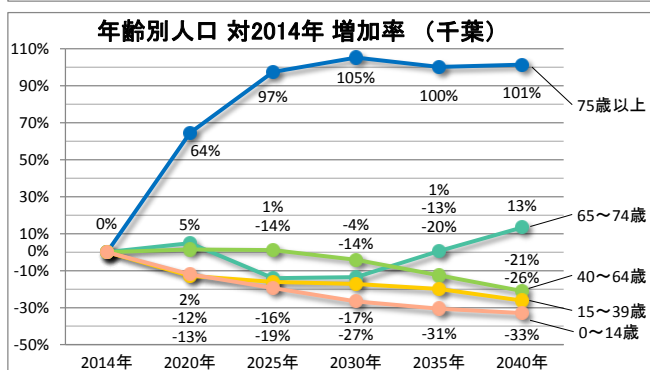
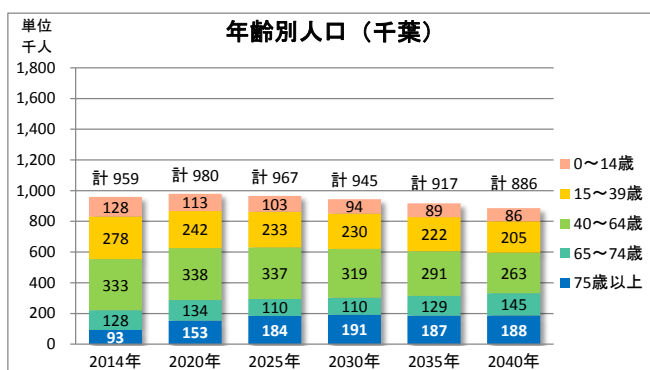
循環器系の疾患	16%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-3%
筋骨格系及び結合組織の疾患	9%	皮膚及び皮下組織の疾患	-5%
眼及び付属器の疾患	5%	耳及び乳様突起の疾患	-7%
消化器系の疾患	4%	先天奇形、変形及び染色体異常	-8%
新生物	3%	感染症及び寄生虫症	-8%
内分泌、栄養及び代謝疾患	3%	精神及び行動の障害	-14%
神経系の疾患	1%	呼吸器系の疾患	-16%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
泌尿生殖器系の疾患	-2%	周産期に発生した病態	-33%



## 千葉保健医療圏

2020年をピークに、総人口は減少することが見込まれる。若年人口が減少する一方で、75歳以上の人口は2025年には倍増。

この人口構成の影響を受けて、入院患者数は2035年、外来患者は2030年をピークにそれぞれ、57%増、13%増。高齢患者の増加から2035年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。

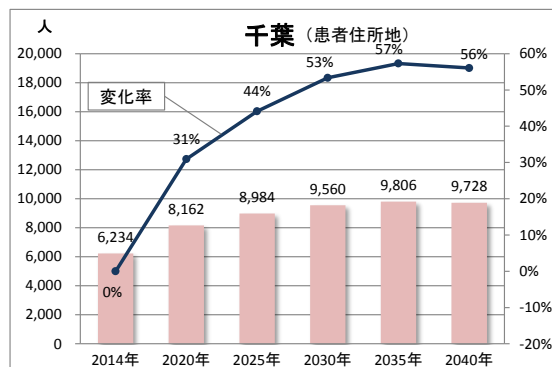


## 1. 人口の推移

- ◆総人口は、2020年をピークにその後減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は一貫して減少。2040年には2014年時点と比較して0~14歳は33%減、15~39歳は26%減。
- ◆40~64歳は2025年まで大きな増減はなく、その後減少し2040年には21%減。
- ◆65~74歳は、2030年から増加が見られ、2040年には13%増。
- ◆75歳以上は2025年には倍増し、その後は横ばいとなる。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして9,806人と推計。2014年の同患者数の57%増。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 千葉)

呼吸器系の疾患	126%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	45%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	105%	眼及び付属器の疾患	38%
内分泌、栄養及び代謝疾患	89%	新生物	34%
循環器系の疾患	85%	感染症及び寄生虫症	27%
泌尿生殖器系の疾患	68%	精神及び行動の障害	18%
消化器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	-
皮膚及び皮下組織の疾患	49%	妊娠、分娩及び産じょく	-22%
筋骨格系及び結合組織の疾患	47%	先天奇形、変形及び染色体異常	-27%
神経系の疾患	46%	周産期に発生した病態	-28%

千葉保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	62.9%
東葛南部	7.4%
東葛北部	1.0%
印旛	6.7%
香取海匝	1.2%
山武長生夷隅	6.9%
安房	0.3%
君津	1.7%
市原	4.8%
県外	7.1%
合計	100.0%
医療圏外計	37.1%

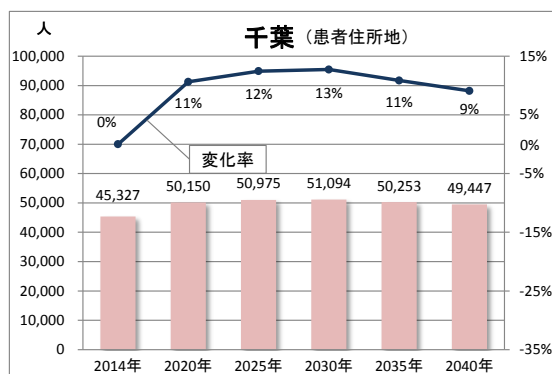
千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	74.7%
東葛南部	9.8%
東葛北部	0.8%
印旛	4.8%
香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	1.6%
安房	0.3%
君津	0.7%
市原	2.1%
県外	4.9%
合計	100.0%
医療圏外計	25.3%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」、「妊娠、分娩産じょく」の患者数は減少。
- ◆ 千葉保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 37.1%。
- ◆ 千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.3%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2030 年をピークとして 51,094 人と推計。2014 年の同患者数の 13%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。

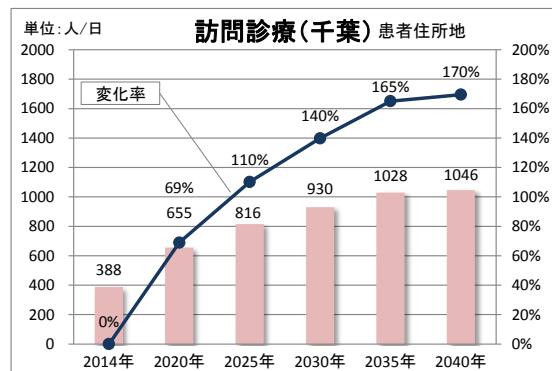
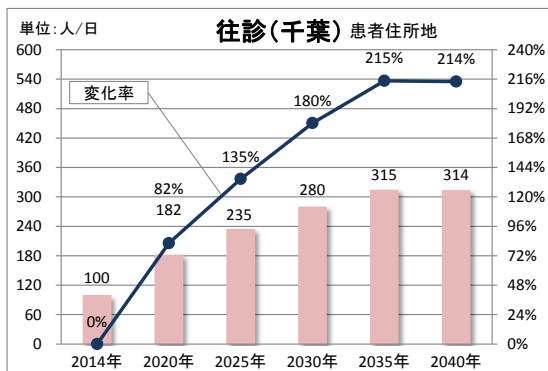


- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2035 年における往診を必要とする患者数は対

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 千葉)

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8%
筋骨格系及び結合組織の疾患	24%	皮膚及び皮下組織の疾患	4%
内分泌、栄養及び代謝疾患	17%	耳及び乳様突起の疾患	2%
新生物	16%	先天奇形、変形及び染色体異常	2%
眼及び付属器の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	-2%
消化器系の疾患	13%	精神及び行動の障害	-6%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	-9%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	10%	妊娠、分娩及び産じょく	-25%
泌尿生殖器系の疾患	9%	周産期に発生した病態	-

2014 年比約 215%増、訪問診療を必要とする患者数は、約 165%増になることが見込まれる。



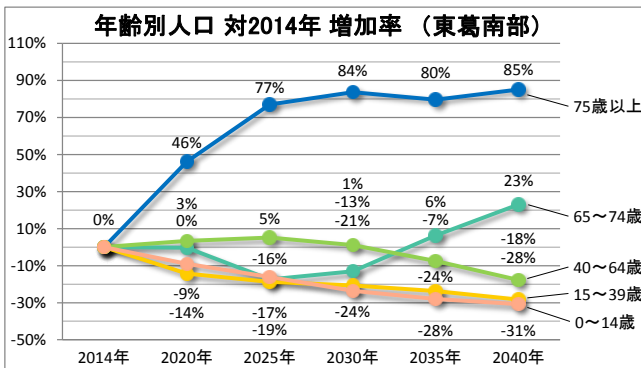
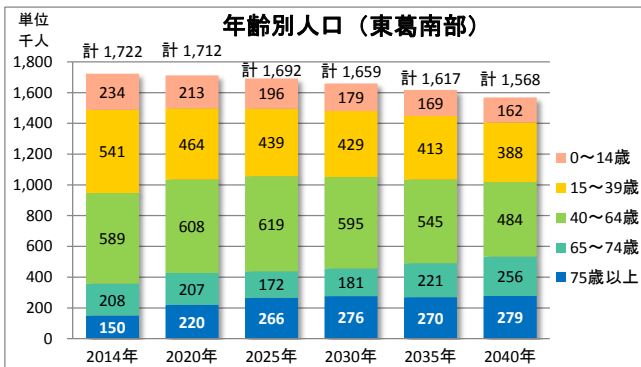
※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

# 東葛南部保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は一貫して増加し 2040 年に 54% 増、外来患者は 2030 年のピークで 12% 増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。



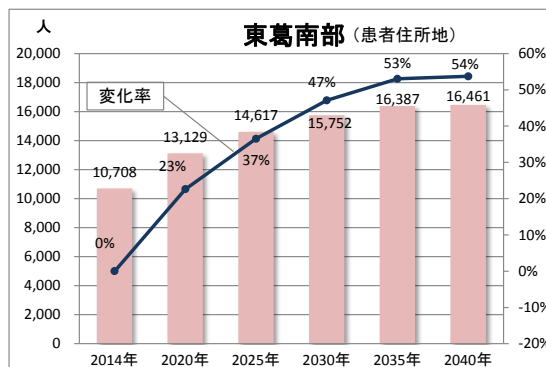
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は、2040年に2014年時点の約3割減。
- ◆40~64歳は2030年から減少に転じ、2040年に約2割減。
- ◆65~74歳は、2025年の17%減から増加しはじめ、2040年時点で対2014年比23%増。
- ◆75歳以上は2025年からは、対2014年約8割増前後で横ばいとなる。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、一貫して増加し、2040年に16,461人と推計。2014年の同患者数の54%増。ただし、上昇率は次第に緩やかになる。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 東葛南部)

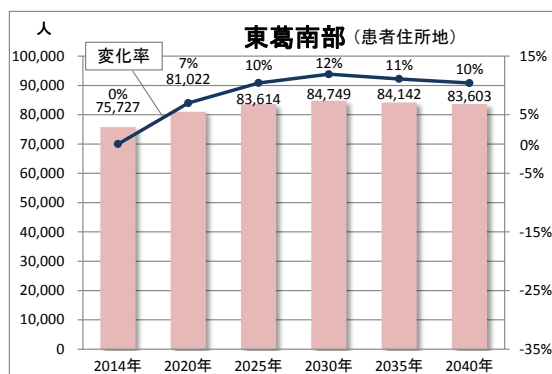
呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
泌尿路生殖器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	-28%

東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	5.2%	千葉	5.1%
東葛南部	68.2%	東葛南部	75.2%
東葛北部	6.2%	東葛北部	4.8%
印旛	6.4%	印旛	4.0%
香取海匝	0.3%	香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	0.4%	山武長生夷隅	0.3%
安房	-	安房	0.2%
君津	0.2%	君津	0.3%
市原	0.2%	市原	0.1%
県外	12.8%	県外	9.7%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	31.8%	医療圏外計	24.8%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 31.8%。
- ◆ 東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 24.8%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2030年をピークとして 84,749 人と推計。2014年の同患者数の 12%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分



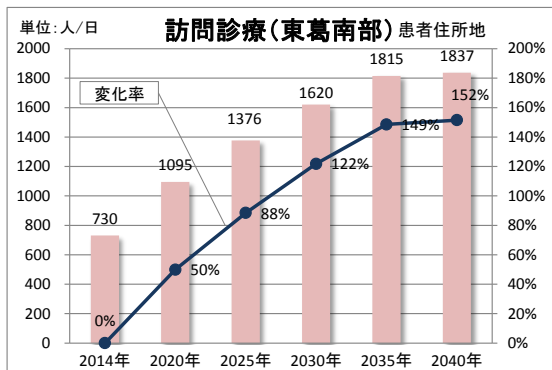
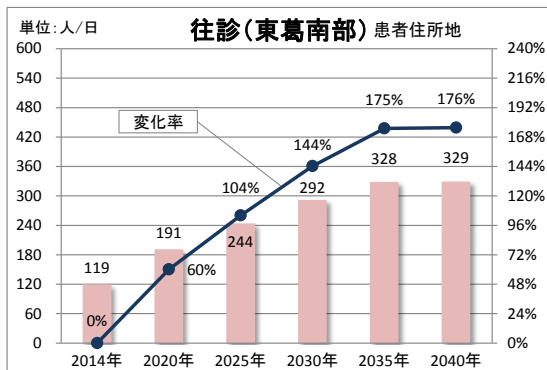
泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040年における往診を必要とする患者数は、

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 東葛南部)

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7%
筋骨格系及び結合組織の疾患	22%	耳及び乳様突起の疾患	4%
内分泌、栄養及び代謝疾患	19%	先天奇形、変形及び染色体異常	3%
新生物	16%	皮膚及び皮下組織の疾患	2%
消化器系の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	2%
眼及び付属器の疾患	14%	精神及び行動の障害	-8%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	-8%
泌尿路生殖器系の疾患	11%	妊娠、分娩及び産じょく	-18%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	8%	周産期に発生した病態	-

対 2014 年比約 176%増、訪問診療を必要とする患者数は約 152%増になることが見込まれる。



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

# 東葛北部保健医療圏

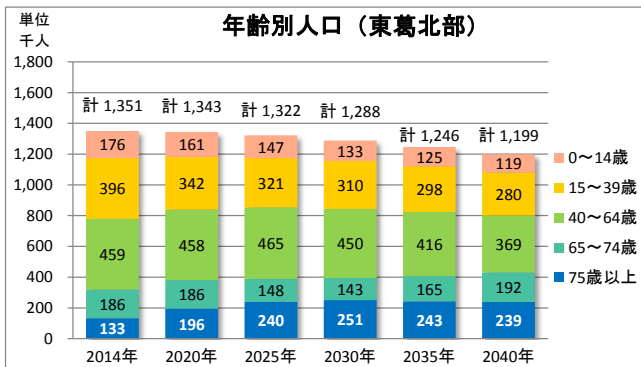
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2025 年をピークにそれぞれ、47% 増、7% 増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



松戸市  
野田市  
柏市  
流山市  
我孫子市

## 1. 人口の推移

◆総人口は、一貫して減少。

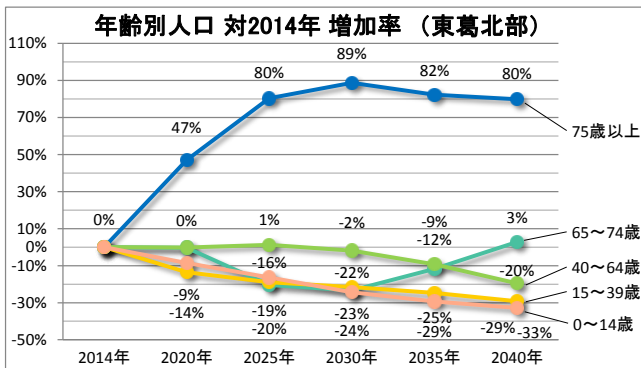


◆若年層(0~14 歳、15~39 歳)は、2040 年に 2014 年時点の約 3 割減。

◆40~64 歳は 2030 年から減少に転じ、2040 年に約 2 割減。

◆65~74 歳は、2030 年の 23% 減から増加しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 3% 増。

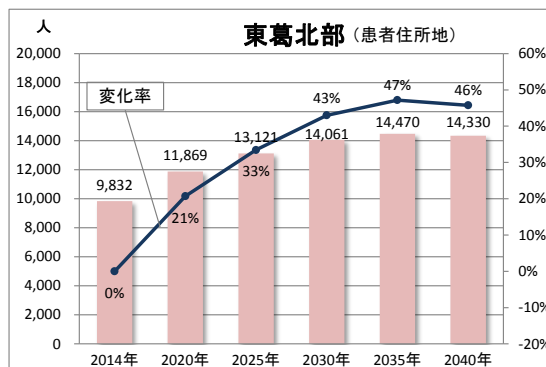
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 89% 増でピークを迎え、その後は約 8 割増前後で推移する。



## 2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 14,470 人と推計。2014 年の同患者数の 47% 増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 東葛北部)

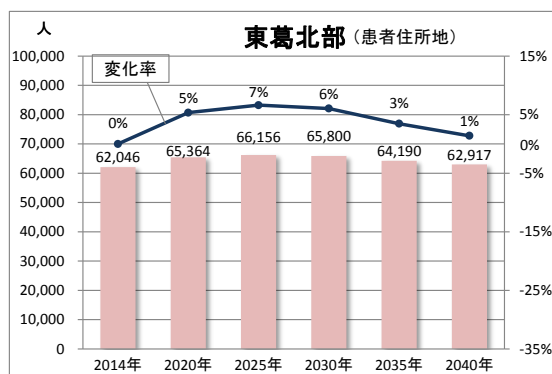
呼吸器系の疾患	101%	筋骨格系及び結合組織の疾患	38%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	76%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	33%
循環器系の疾患	67%	神経系の疾患	29%
腎尿路生殖器系の疾患	63%	新生物	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	18%
皮膚及び皮下組織の疾患	55%	眼及び付属器の疾患	12%
感染症及び寄生虫症	47%	先天奇形、変形及び染色体異常	-28%
消化器系の疾患	46%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
耳及び乳様突起の疾患	45%	周産期に発生した病態	-32%

東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	0.5%	千葉	0.7%
東葛南部	5.3%	東葛南部	7.5%
東葛北部	74.9%	東葛北部	74.6%
印旛	1.8%	印旛	1.5%
香取海匠	0.2%	香取海匠	0.1%
山武長生夷隅	0.1%	山武長生夷隅	0.1%
安房	-	安房	0.1%
君津	-	君津	0.2%
市原	-	市原	-
県外	17.2%	県外	15.1%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	25.1%	医療圏外計	25.4%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 25.1%。
- ◆ 東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.4%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

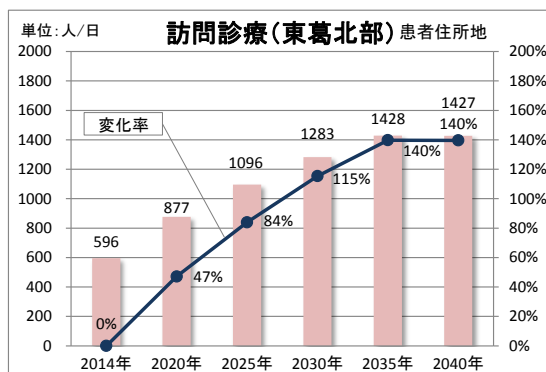
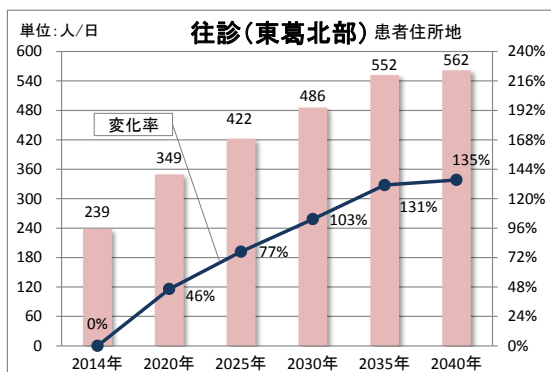
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2025 年をピークとして 66,156 人と推計。2014 年の同患者数の 7%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加。



- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比 135%増、訪問診療を必要とする患者数は 140%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 東葛北部)

循環器系の疾患	22%	腎尿路生殖器系の疾患	3%
筋骨格系及び結合組織の疾患	13%	皮膚及び皮下組織の疾患	-2%
眼及び付属器の疾患	8%	耳及び乳様突起の疾患	-3%
新生物	7%	感染症及び寄生虫症	-3%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7%	先天奇形、変形及び染色体異常	-7%
内分泌、栄養及び代謝疾患	6%	精神及び行動の障害	-12%
消化器系の疾患	6%	呼吸器系の疾患	-13%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4%	周産期に発生した病態	-21%
神経系の疾患	3%	妊娠、分娩及び産じょく	-32%



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

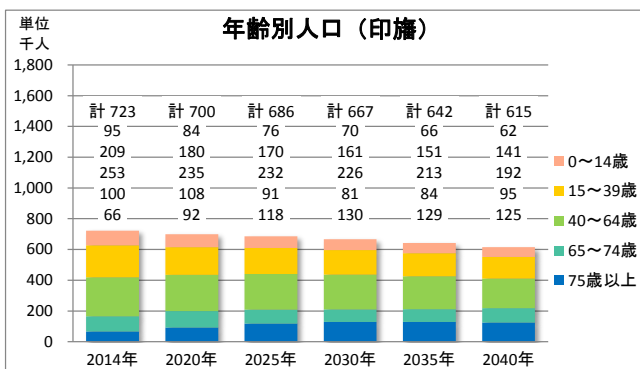
# 印旛保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2025 年をピークにそれぞれ、42%増、3%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



## 1. 人口の推移

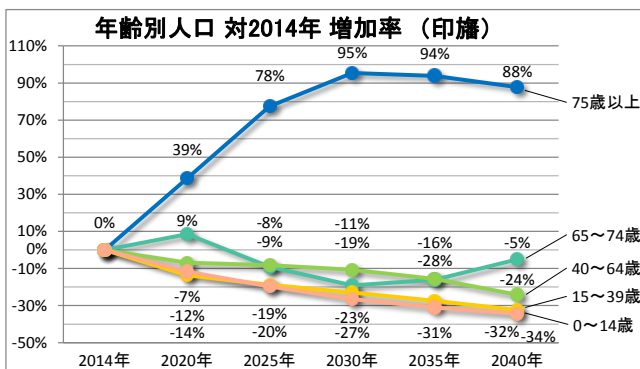
◆総人口は、一貫して減少。



◆若年層(0~14 歳、15~39 歳)は、2040 年に 2014 年時点の約 3 割減。40~64 歳は 24% 減。

◆65~74 歳は、2030 年の 19%減から減少率は低下しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 5%減。

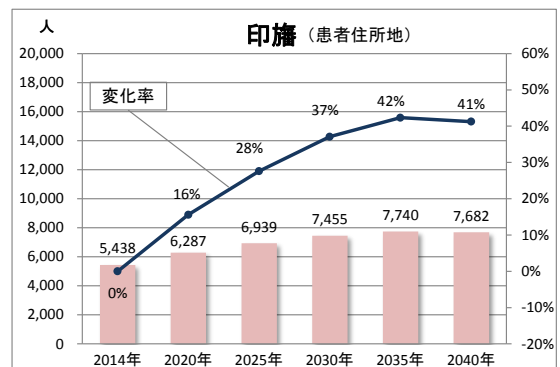
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 95%増でピークを迎える。



## 2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 7,740 人と推計。2014 年の同患者数の 42%増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。





2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 印旛)

呼吸器系の疾患	82%	感染症及び寄生虫症	36%
循環器系の疾患	67%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	31%
皮膚及び皮下組織の疾患	66%	神経系の疾患	28%
泌尿生殖器系の疾患	60%	新生物	22%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	57%	精神及び行動の障害	15%
消化器系の疾患	56%	耳及び乳様突起の疾患	9%
内分泌、栄養及び代謝疾患	53%	先天奇形、変形及び染色体異常	-25%
眼及び付属器の疾患	46%	周産期に発生した病態	-30%
筋骨格系及び結合組織の疾患	37%	妊娠、分娩及び産じょく	-31%

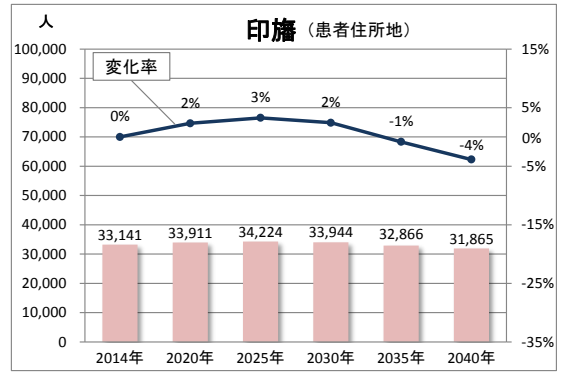
患者住所	構成比
千葉	5.4%
東葛南部	7.7%
東葛北部	2.7%
印旛	63.1%
香取海匠	6.7%
山武長生夷隅	3.9%
安房	-
君津	0.3%
市原	0.5%
県外	9.6%
合計	100.0%
医療圏外計	36.9%

医療機関所在地	構成比
千葉	9.2%
東葛南部	14.0%
東葛北部	3.2%
印旛	64.3%
香取海匠	1.3%
山武長生夷隅	2.5%
安房	0.2%
君津	-
市原	0.2%
県外	5.1%
合計	100.0%
医療圏外計	35.7%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。
- ◆ 印旛保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 36.9%。
- ◆ 印旛保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 35.7%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

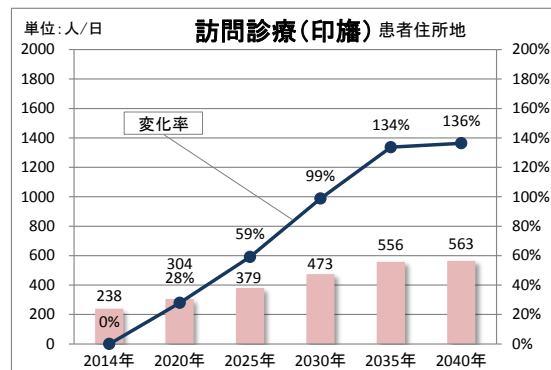
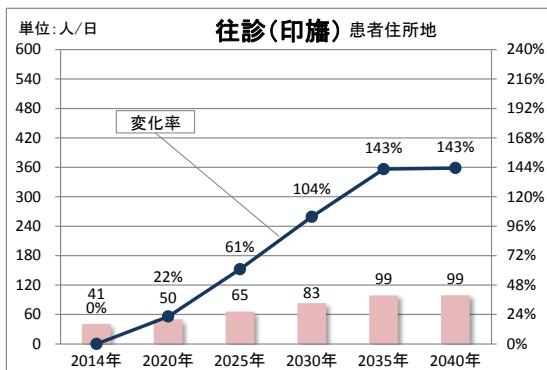
- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、2025 年をピークとして 34,224 人と推計。2014 年の同患者数の 3%増。
- ◆ 一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が増加。



- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」の患者数の減少幅が大きい。
- ◆ 高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比 143%増、訪問診療を必要とする患者数は 136%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 印旛)

循環器系の疾患	18%	神経系の疾患	-4%
筋骨格系及び結合組織の疾患	10%	皮膚及び皮下組織の疾患	-8%
眼及び付属器の疾患	4%	感染症及び寄生虫症	-10%
消化器系の疾患	3%	精神及び行動の障害	-11%
内分泌、栄養及び代謝疾患	1%	耳及び乳様突起の疾患	-11%
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	1%	呼吸器系の疾患	-18%
泌尿生殖器系の疾患	-2%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	-2%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
新生物	-3%	周産期に発生した病態	-



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が 10 人未満。

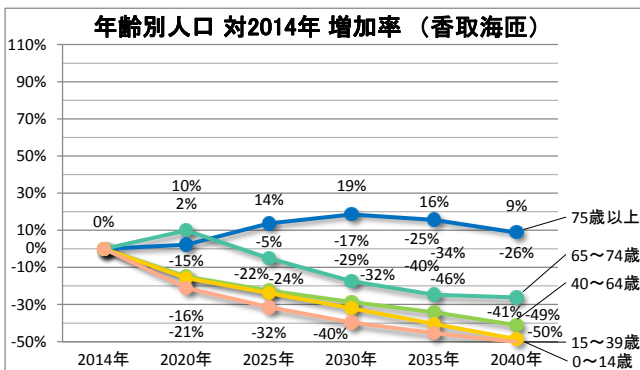
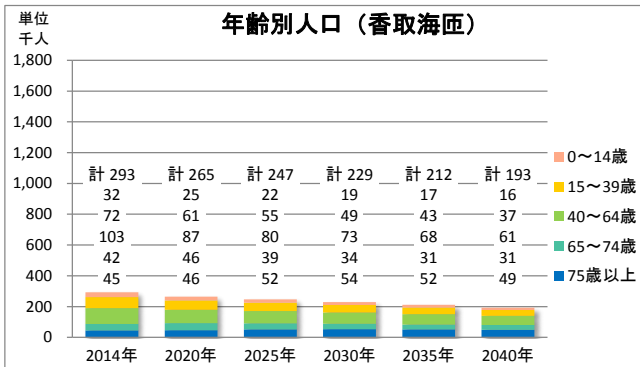
# 香取海匠保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年に 19%増まで増加するが、その後減少に転じる。

この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 31%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。



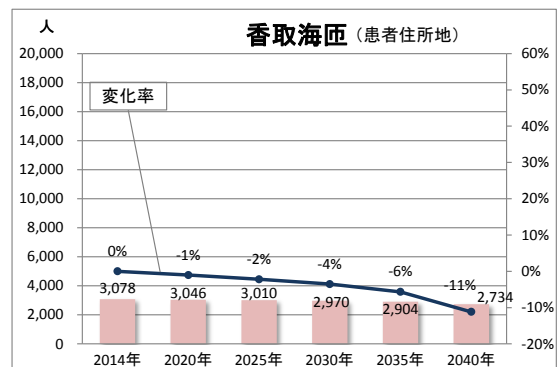
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆若年層(0~14歳、15~39歳)は、2040年に2014年時点の約5割減。40~64歳は4割減。
- ◆65~74歳は、2020年の10%増から下降をはじめ、2040年時点で対2014年比26%減。
- ◆75歳以上は2030年に対2014年19%増でピークを迎え、2040年の9%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、一貫して減少。2040年には2,734人で、2014年の同患者数の11%減と推計。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 香取海匠)

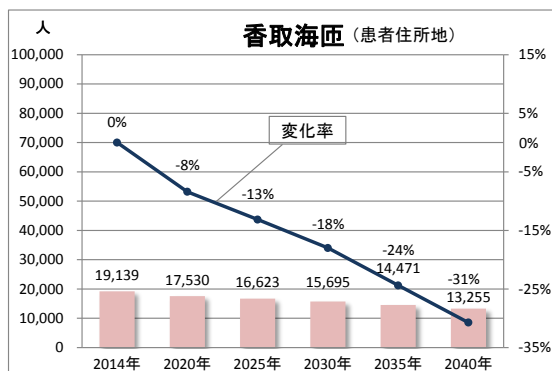
呼吸器系の疾患	12%	感染症及び寄生虫症	-9%
循環器系の疾患	7%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-9%
耳及び乳様突起の疾患	-	新生物	-9%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1%	皮膚及び皮下組織の疾患	-12%
消化器系の疾患	0%	眼及び付属器の疾患	-16%
腎尿路生殖器系の疾患	-5%	精神及び行動の障害	-18%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-5%	周産期に発生した病態	-38%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-6%	妊娠、分娩及び産じょく	-38%
神経系の疾患	-6%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

香取海匠保健医療圏の医療機関の入院患者住所地		香取海匠保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
患者住所	構成比	医療機関所在地	構成比
千葉	0.7%	千葉	3.0%
東葛南部	1.0%	東葛南部	1.0%
東葛北部	0.5%	東葛北部	0.5%
印旛	2.4%	印旛	12.1%
香取海匠	76.3%	香取海匠	70.9%
山武長生夷隅	7.1%	山武長生夷隅	1.9%
安房	-	安房	-
君津	-	君津	-
市原	-	市原	-
県外	11.7%	県外	10.3%
合計	100.0%	合計	100.0%
医療圏外計	23.7%	医療圏外計	29.1%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数は大きく減少。
- ◆ 香取海匠保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 23.7%。
- ◆ 香取海匠保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 29.1%。

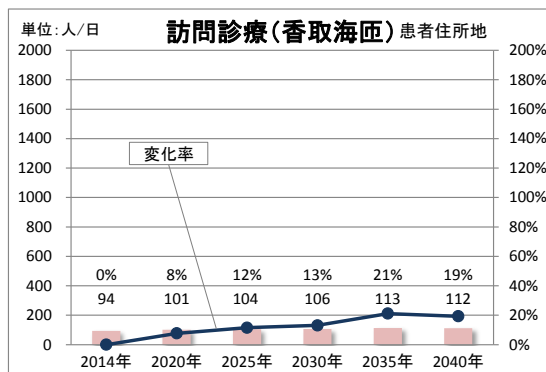
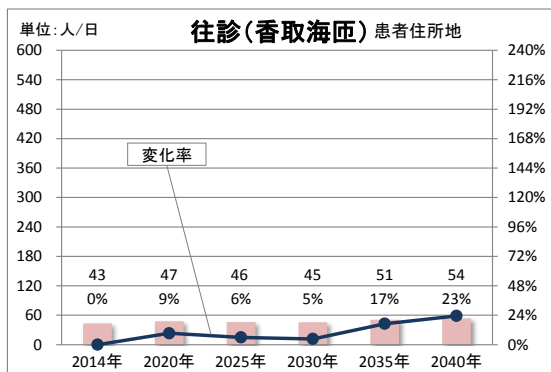
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には13,255人で、2014年の同患者数の31%減と推計。
- ◆ 総人口の減少に加え、75歳以上の人口増加率が他の二次医療圏と比べて小さいため、全ての傷病分類で減少。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 香取海匠)

循環器系の疾患	-17%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-27%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-18%	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-29%
神経系の疾患	-20%	感染症及び寄生虫症	-29%
眼及び付属器の疾患	-21%	皮膚及び皮下組織の疾患	-30%
消化器系の疾患	-22%	耳及び乳様突起の疾患	-32%
新生物	-22%	精神及び行動の障害	-32%
腎尿路生殖器系の疾患	-23%	周産期に発生した病態	-34%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-24%	呼吸器系の疾患	-36%
先天奇形、変形及び染色体異常	-27%	妊娠、分娩及び産じょく	-37%

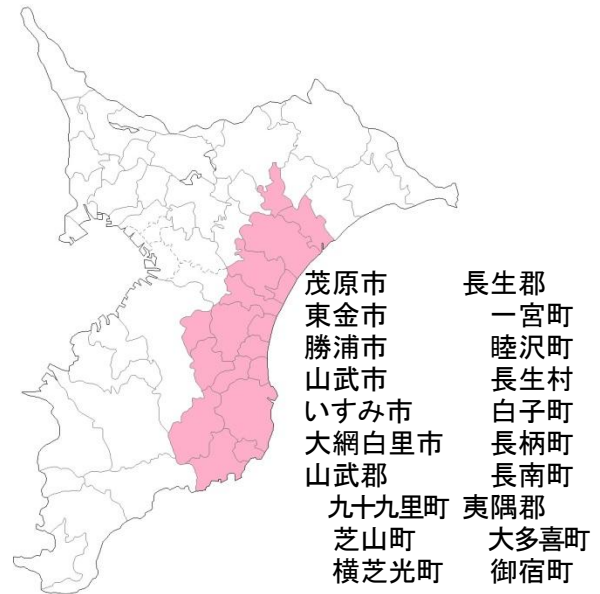


※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

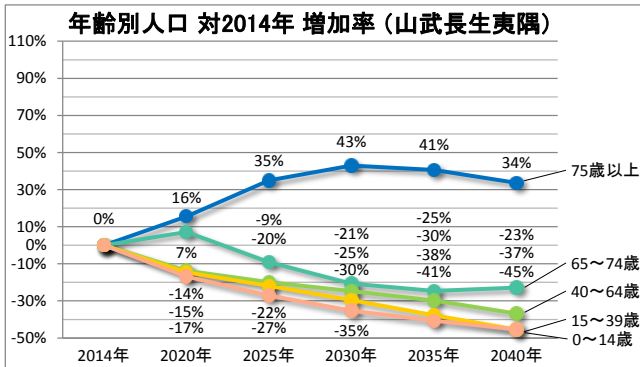
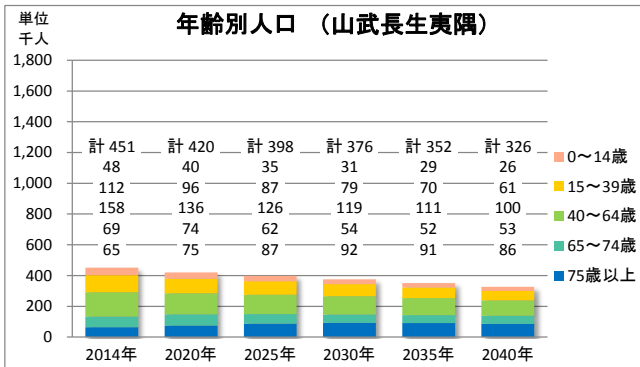
# 山武長生夷隅保健医療圏

2014年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75歳以上の人口は2030年43%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は2035年にピークとなり、12%増。高齢者人口の影響を受けて、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040年には22%減。



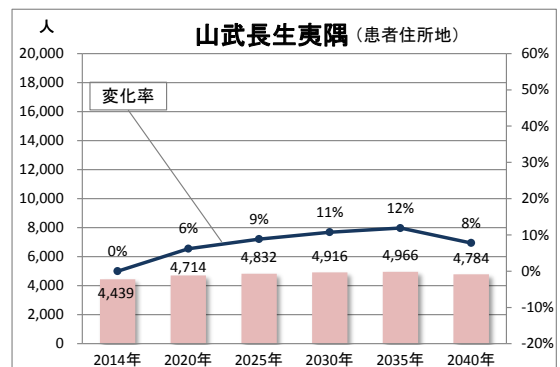
## 1. 人口の推移



- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆0~14歳、15~39歳、40~64歳は、2040年に2014年時点の約4割減。
- ◆65~74歳は、2020年の7%増から下降をはじめ、2040年時点で対2014年比23%減。
- ◆75歳以上は2030年に対2014年43%増でピークを迎え、2040年の34%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035年をピークとして4,966人と推計。対2014年の同患者数の12%増。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 山武長生夷隅)

呼吸器系の疾患	42%	消化器系の疾患	7%
循環器系の疾患	34%	筋骨格系及び結合組織の疾患	3%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	28%	新生物	-3%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	24%	眼及び付属器の疾患	-4%
泌尿路生殖器系の疾患	20%	精神及び行動の障害	-14%
感染症及び寄生虫症	18%	耳及び乳様突起の疾患	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	16%	妊娠、分娩及び産じょく	-35%
神経系の疾患	14%	周産期に発生した病態	-37%
皮膚及び皮下組織の疾患	13%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

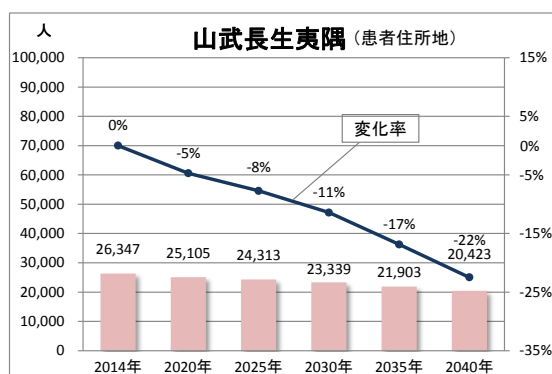
患者住所	構成比
千葉	3.0%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.3%
印旛	4.0%
香取海匝	1.8%
山武長生夷隅	83.1%
安房	0.4%
君津	0.5%
市原	2.5%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	16.9%

医療機関所在地	構成比
千葉	11.5%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.2%
印旛	4.8%
香取海匝	4.6%
山武長生夷隅	63.3%
安房	6.5%
君津	0.4%
市原	4.6%
県外	2.9%
合計	100.0%
医療圏外計	36.7%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」の患者数は大きく減少。
- ◆ 山武長生夷隅保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は16.9%。
- ◆ 山武長生夷隅保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が36.7%。

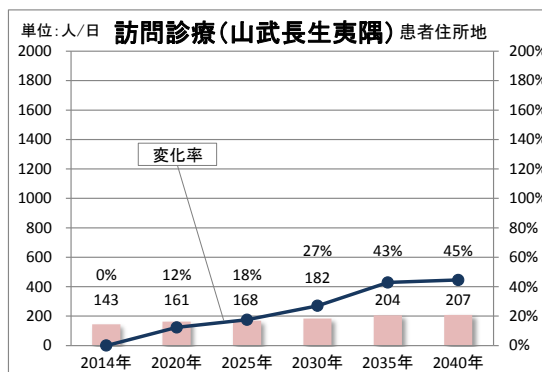
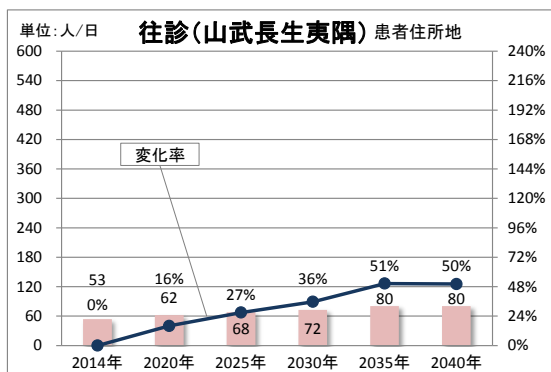
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には20,423人で、2014年の同患者数の22%減と推計。
- ◆ すべての傷病分類に減少が見られる。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 山武長生夷隅)

循環器系の疾患	-6%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-10%	皮膚及び皮下組織の疾患	-22%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-11%	先天奇形、変形及び染色体異常	-22%
眼及び付属器の疾患	-11%	耳及び乳様突起の疾患	-23%
消化器系の疾患	-11%	感染症及び寄生虫症	-24%
新生物	-16%	精神及び行動の障害	-27%
神経系の疾患	-16%	呼吸器系の疾患	-29%
泌尿路生殖器系の疾患	-17%	周産期に発生した病態	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	-18%	妊娠、分娩及び産じょく	-42%

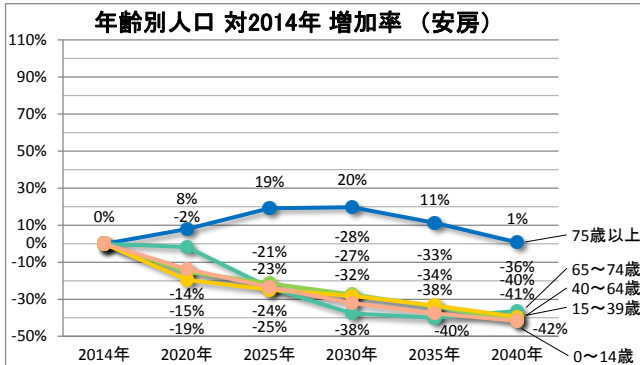
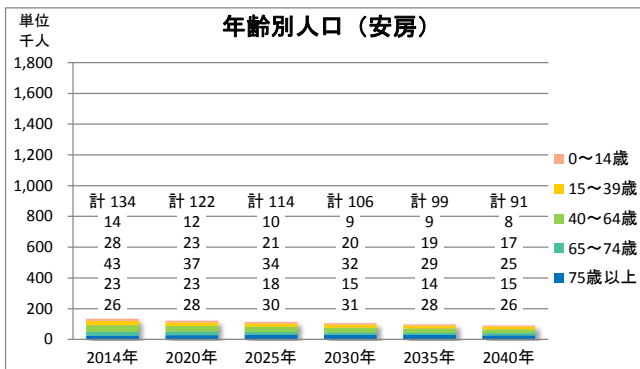


※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

# 安房保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 20%増まで増加するが、その後減少に転じる。

この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 30%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が特に増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。

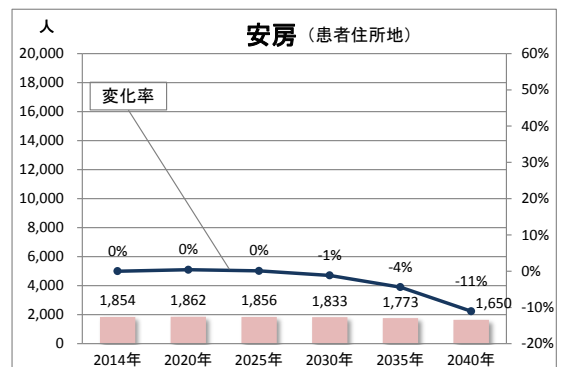


## 1. 人口の推移

- ◆ 総人口は、一貫して減少。
- ◆ 0~14 歳、15~39 歳、40~64 歳、65~74 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。
- ◆ 75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 20%増でピークを迎え、2040 年の 1%増まで下降。

## 2. 入院患者数

- ◆ 1日あたり入院患者数は、2020 年の 1,862 人をピークとして減少。減少幅は次第に大きくなる。2040 年には 1,650 人で、2014 年の同患者数の 11%減と推計。
- ◆ 一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 安房)

耳及び乳様突起の疾患	-	消化器系の疾患	-5%
血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	-	皮膚及び皮下組織の疾患	-8%
呼吸器系の疾患	22%	新生物	-14%
循環器系の疾患	9%	神経系の疾患	-15%
感染症及び寄生虫症	6%	精神及び行動の障害	-17%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3%	眼及び付属器の疾患	-26%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-1%	先天奇形、変形及び染色体異常	-
腎尿路生殖器系の疾患	-2%	妊娠、分娩及び産じょく	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	-3%	周産期に発生した病態	-

患者住所	構成比
千葉	0.9%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.4%
印旛	0.4%
香取海匝	-
山武長生夷隅	11.7%
安房	69.4%
君津	8.3%
市原	0.7%
県外	6.9%
合計	100.0%
医療圏外計	30.6%

医療機関所在地	構成比
千葉	1.0%
東葛南部	-
東葛北部	-
印旛	-
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.8%
安房	92.0%
君津	1.3%
市原	0.6%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	8.0%

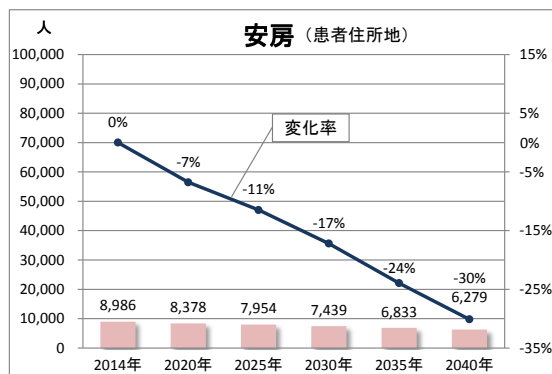
◆安房保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 30.6%。

◆安房保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 8.0%。

### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

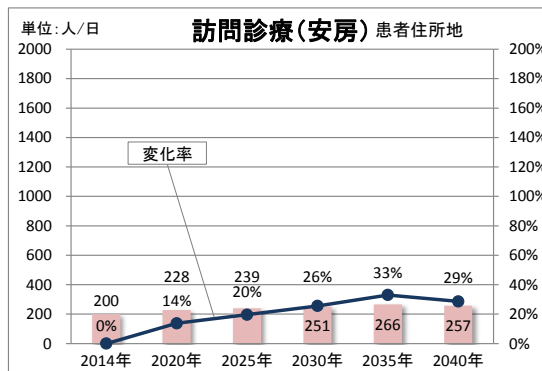
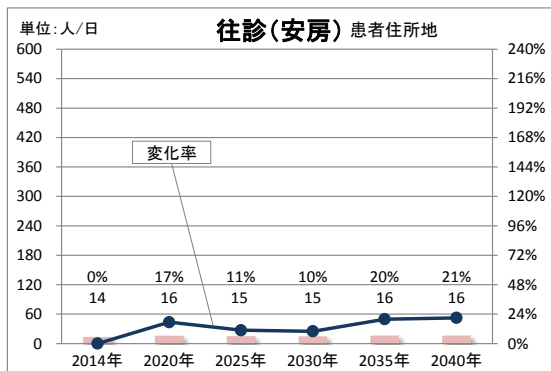
◆1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には6,279人で、2014年の同患者数の30%減と推計。

◆すべての傷病分類に減少が見られる。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 安房)

先天奇形、変形及び染色体異常	-12%	内分泌、栄養及び代謝疾患	-26%
循環器系の疾患	-17%	新生物	-26%
血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	-19%	腎尿路生殖器系の疾患	-28%
皮膚及び皮下組織の疾患	-19%	呼吸器系の疾患	-28%
眼及び付属器の疾患	-21%	感染症及び寄生虫症	-29%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-23%	耳及び乳様突起の疾患	-33%
神経系の疾患	-23%	精神及び行動の障害	-33%
消化器系の疾患	-25%	妊娠、分娩及び産じょく	-
損傷、中毒及びその他の外因の影響	-26%	周産期に発生した病態	-



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

## 君津保健医療圏

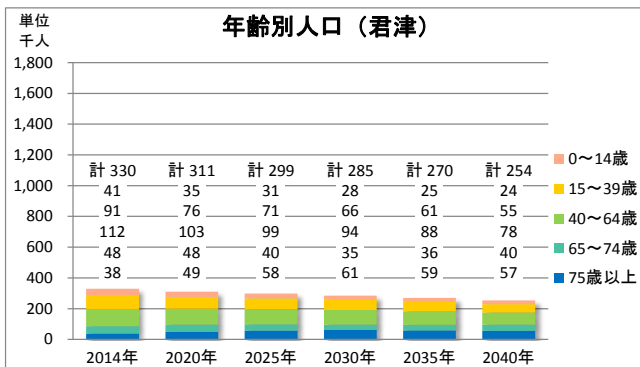
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 61%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は 2035 年に 25%増とピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加する。外来患者は、総人口同様一貫して減少し、2040 年には 16%減。

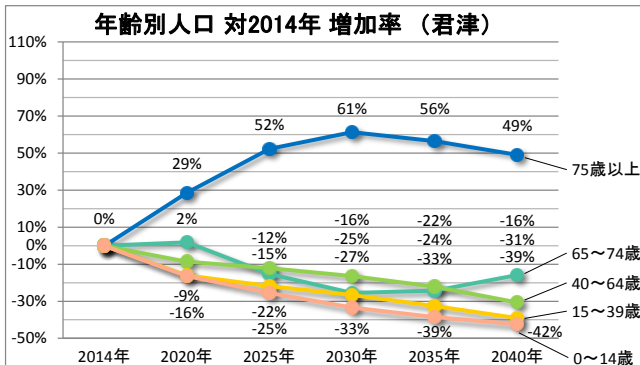


木更津市  
君津市  
富津市  
袖ヶ浦市

### 1. 人口の推移

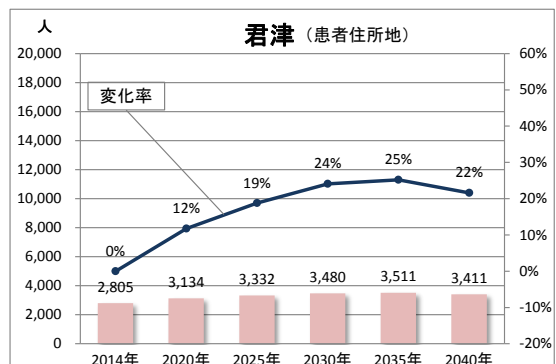


- ◆総人口は、一貫して減少。
- ◆0~14 歳、15~39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40~64 歳は、31%減。
- ◆65~74 歳は、2020 年の 2%増から下降をはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 16%減。
- ◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 61%増でピークを迎え、2040 年の 49%増まで下降。



### 2. 入院患者数

- ◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 3,511 人、対 2014 年の同患者数の 25%増と推計。
- ◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。





2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 君津)

血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	67%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	24%
呼吸器系の疾患	65%	感染症及び寄生虫症	13%
循環器系の疾患	52%	眼及び付属器の疾患	11%
内分泌、栄養及び代謝疾患	50%	新生物	4%
皮膚及び皮下組織の疾患	33%	精神及び行動の障害	1%
消化器系の疾患	28%	耳及び乳様突起の疾患	-
腎尿路生殖器系の疾患	28%	妊娠、分娩及び産じょく	-33%
神経系の疾患	28%	周産期に発生した病態	-35%
筋骨格系及び結合組織の疾患	27%	先天奇形、変形及び染色体異常	-36%

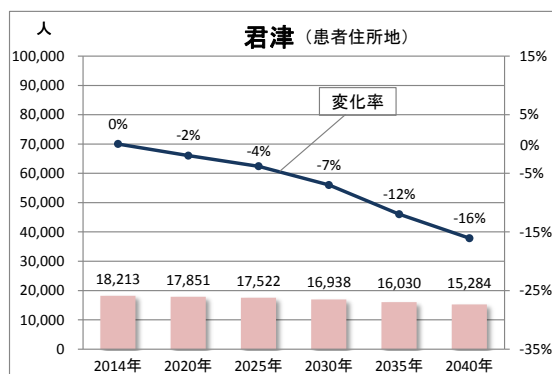
患者住所	構成比
千葉	1.6%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.6%
印旛	-
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.6%
安房	0.9%
君津	85.2%
市原	4.5%
県外	5.3%
合計	100.0%
医療圏外計	14.8%

医療機関所在地	構成比
千葉	4.5%
東葛南部	0.8%
東葛北部	-
印旛	0.6%
香取海匝	-
山武長生夷隅	0.6%
安房	7.3%
君津	77.4%
市原	4.9%
県外	3.7%
合計	100.0%
医療圏外計	22.6%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「先天奇形、変形、染色体異常」、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」の患者数は減少。
- ◆ 君津保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 14.8%。
- ◆ 君津保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 22.6%。

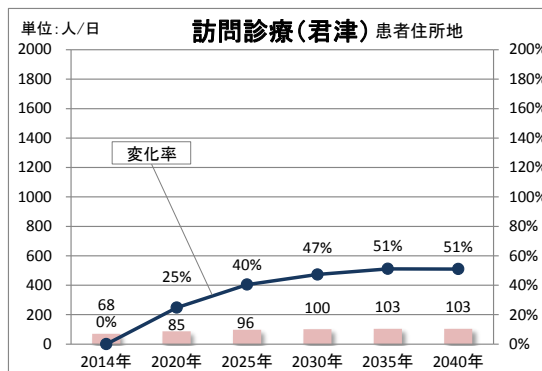
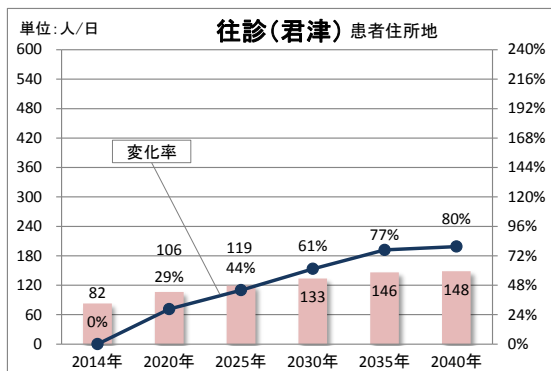
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には15,284人で、2014年の同患者数の16%減と推計。
- ◆ 一般的に、高齢外来者に多い「循環器系の疾患」が微増。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 君津)

循環器系の疾患	5%	先天奇形、変形及び染色体異常	-14%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3%	感染症及び寄生虫症	-18%
眼及び付属器の疾患	-7%	耳及び乳様突起の疾患	-18%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-7%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-18%
消化器系の疾患	-8%	皮膚及び皮下組織の疾患	-19%
神経系の疾患	-9%	精神及び行動の障害	-23%
新生物	-11%	呼吸器系の疾患	-26%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-12%	周産期に発生した病態	-
腎尿路生殖器系の疾患	-13%	妊娠、分娩及び産じょく	-34%



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

# 市原保健医療圏

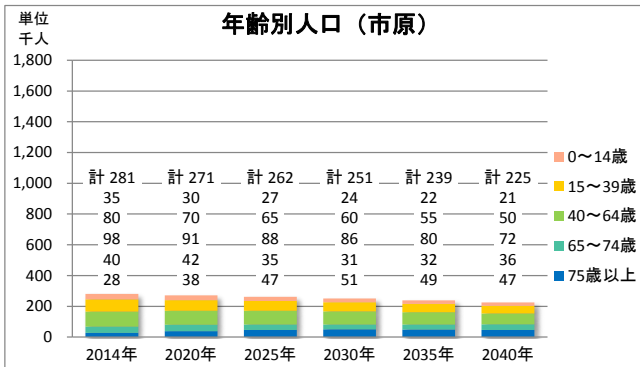
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 81%増をピークとして、その後減少に転じる。

入院患者は 2035 年 29%増でピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040 年には 13%減となるが、高齢者の増加から 2035 年時点で、「循環器系の疾患」は増加が見込まれる。



市原市

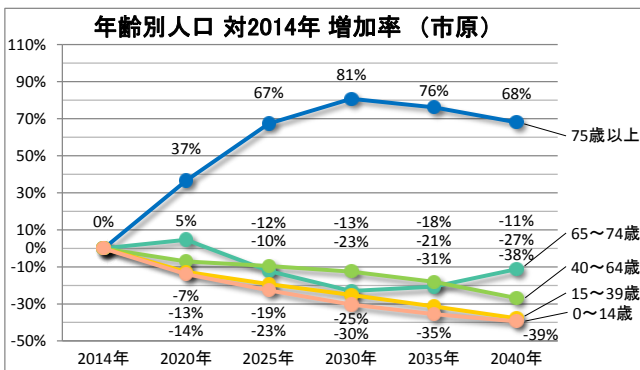
## 1. 人口の推移



◆総人口は、一貫して減少。

◆0~14 歳、15~39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40~64 歳は、27%減。

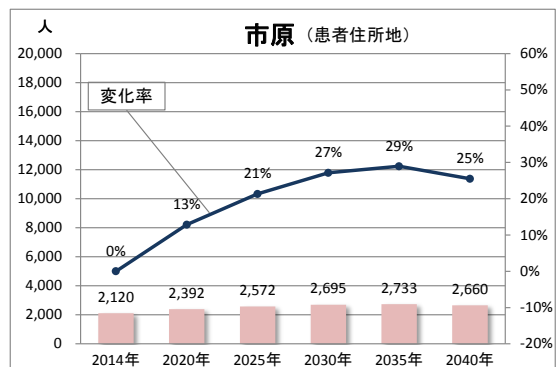
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 81%増でピークを迎え、2040 年の 68%増まで下降。



## 2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 2,733 人、対 2014 年の同患者数の 29%増と推計。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率(患者住所地 市原)

呼吸器系の疾患	74%	内分泌、栄養及び代謝疾患	23%
循環器系の疾患	55%	皮膚及び皮下組織の疾患	20%
消化器系の疾患	50%	神経系の疾患	16%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	48%	新生物	12%
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	36%	眼及び付属器の疾患	9%
腎尿路生殖器系の疾患	35%	精神及び行動の障害	-1%
筋骨格系及び結合組織の疾患	29%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
耳及び乳様突起の疾患	-	周産期に発生した病態	-32%
感染症及び寄生虫症	25%	先天奇形、変形及び染色体異常	-

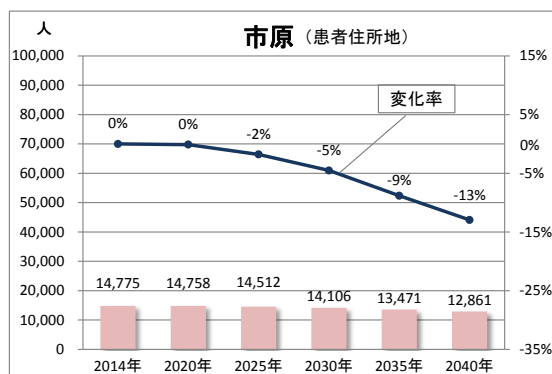
市原保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	6.5%
東葛南部	0.7%
東葛北部	-
印旛	0.5%
香取海匝	-
山武長生夷隅	10.4%
安房	0.6%
君津	7.0%
市原	71.6%
県外	2.1%
合計	100.0%
医療圏外計	28.4%

市原保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	16.7%
東葛南部	1.1%
東葛北部	-
印旛	1.3%
香取海匝	-
山武長生夷隅	4.1%
安房	0.8%
君津	5.4%
市原	66.1%
県外	4.3%
合計	100.0%
医療圏外計	33.9%

- ◆ 出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩産じょく」の患者数は大きく減少。
- ◆ 市原保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 28.4%。
- ◆ 市原保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 33.9%。

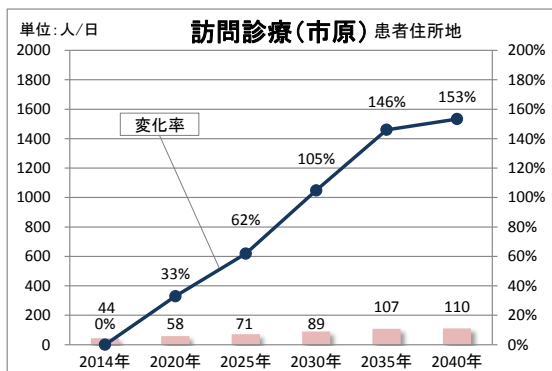
### 3. 外来患者数(往診・訪問診療含む)

- ◆ 1日あたり外来患者数(往診・訪問診療含む)は、一貫して減少。2040年には12,861人で、2014年の同患者数の13%減と推計。
- ◆ 一般的に、高齢外来者に多い、「循環器系の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率(患者住所地 市原)

循環器系の疾患	9%	皮膚及び皮下組織の疾患	-14%
筋骨格系及び結合組織の疾患	-2%	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-14%
消化器系の疾患	-2%	耳及び乳様突起の疾患	-15%
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-2%	先天奇形、変形及び染色体異常	-
神経系の疾患	-4%	精神及び行動の障害	-18%
眼及び付属器の疾患	-4%	感染症及び寄生虫症	-19%
新生物	-5%	呼吸器系の疾患	-25%
内分泌、栄養及び代謝疾患	-6%	妊娠、分娩及び産じょく	-29%
腎尿路生殖器系の疾患	-9%	周産期に発生した病態	-



※ 各表中のパーセンテージの欄が「-」となっているところは、患者数が10人未満。

千葉県保健医療計画及び地域医療構想の策定に係る  
調査分析事業 報告書

平成 27 年 3 月

千葉県健康福祉部健康福祉政策課  
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町 1-1

業務受託者 みずほ情報総研株式会社  
〒101-8443 東京都千代田区神田錦町 2-3